

地域と連携した河川の活用と管理

NPO 法人五泉トゲソの会 常務理事中村吉則

1、地域との連携の必要性

- ◎河川は…本来「地域の共有の空間と財産」として生活になくてはならないものであった。
昔は「薪・焚き物」や「飲み水」「用水」「食べ物(鮭・鰻など)」「牧草地」の供給源
- ◎治水優先で…地域住民との関係が断ち切られてしまった。
「水道」「ガス」など、他からの供給可能となり関係が間接的になってきた。
その結果、近くにありながら、「住民と関係ない川」となってしまった。
- ◎河川管理者が複雑で多岐…一つの川に国や県・市など複数の管理者が存在。
ダムでも電力民間業者・県営ダム・治水ダム・農業用水ダムと複雑な管理が存在。
- ◎川の危険性だけ強調された…氾濫する川・危ない川、だから「近づくな！」と。
教育機関では学びの場所・体験の場所であることを遠ざけた。プールの設置。

- ①ますます「地域住民と関係ない川」となった。 ※ゴミ不法投棄などの問題発生
 - ②これからは、川も工事や建設から管理の時代に ※つくればつくるほど管理費の増大
 - ③地域との連携が不可避 ※近くにあるのだから綺麗にしようよ。利用してみたいね。
- ①×②×③からも

「より良い、地域との連携した河川の活用と管理が求められている」

2、トゲソの会で取り組んだ「いい川づくり」へのアプローチ事例

①いい川ワークショップ大会への参加…過去3回参加

※市民レベルでのいい川とは何かの楽しみながらの議論大会

- ◆1999年7月「いい川ワークショップ」に参加 二次審査へ(東京)
- ◆2000年 二次審査へ 特別賞受賞(東京)
- ◆2005年 二次審査へ 入選受賞(愛知)

※2004年 第1回水と緑の寄ったかり大会(新潟県内) グランプリ



②早出川「清流スクール」の実施—これまでに12回実施

※河川を親水空間として「学びや体験の場」として活用。

- ◆カヌー体験・着衣泳体験・カジカ捕り・投網の体験 等
- ◆ダンボールを使ったカヌー造り・川原でピザづくり・石ペイント遊び・川原で灯り 等



③各地の川づくり団体と交流

※様々団体との交流と学びの交換

- ◆福島県・阿賀川 流域ネットワーク「川に学ぶ体験活動全国大会」の参加
- ◆新潟県 関川 交流と意見交換 ※河川敷でポニーの乗馬体験
- ◆湧水保全フォーラム全国大会へ参加—遊佐町・大野市・東久留米市
- ◆新潟県「全国豊かな海づくり大会」などの参加



④河川環境調査—児童の総合学習支援として

※水生昆虫調べ・ホタルレンジャーとして参加 総合学習支援

- ◆五泉市内の河川4箇所を実施—早出川 滝谷川 大田川 新江川
- ◆水生昆虫調べ 地域の川を知る



⑤河川文化の発掘と広報…ホームページでお知らせ

五泉早出川→カギ流し漁／もっかり漁／がんごず漁 など



3、これから望む「地域と一体となった川づくり」

- ①自然再生計画・事業を考える上で、やはり河川管理者と地元自治体、自治会、NPO、学校、漁業組合、自然愛好会などを構成員とした「ネットワーク協議会」などを立ち上げる必要があるのではないかと。様々な河川における課題、利活用、役割分担などを話合う場を作っていくことが望ましい。

例えば、今回の自然再生事業が早出川地内において実施された場合においても、効果の検証や日常的な管理を担う受け皿として協働していく体制としてぜひ必要と思われる。

- ②国が推進している「かわまちづくり支援制度」を念頭に、川という資源を活かした水辺空間づくりに協働していく体制を目指していくことが必要である。

- ③このことによって、「川に関心を持つ人を増やし」「川の清掃活動等への参加」「親水空間の点検と維持」「ゴミの不法投棄の抑制」「河川の市民的利用」「生物多様な場としての自然空間の関心」なども広がっていく事にもつながる。

協議会等があることにより住民が河川との繋がりを回復して、河川環境などの維持や協力の機運が高まっていくと考えられる。